

## 楽しくはしゃぐプレー

第6回氷川町ふれあい卓球大会

7月8日、竜北体育センターにおいて、第6回氷川町ふれあい卓球大会（氷川卓球クラブ主催）が行われ、初心者から経験者まで20人が参加しました。

ダブルスで行われた試合では、経験によりバランスよくペアを作ったため、接戦が多く見られ、参加者からは「好プレー・珍プレーありの笑い声の絶えない、楽しいゲームでした。」運動不足で明日は体が痛いかも。」などの声が聞かれました。

### 【大会結果】

優勝 山高安廣・本島小夜子  
準優勝 高原康男・畑野美智代



▲参加者でパシャ!

## 農業委員会新体制スタート

農業委員会委員一般選挙当選証書  
附与式

7月9日、氷川町役場中会議室において、7月8日執行の氷川町農業委員会委員一般選挙当選証書附与式が行われ、選挙管理委員会の藤坂史人委員長より、当選した15人の新農業委員一人ひとりに当選証書が附与されました。

今回の選挙は立候補者数が定数に達しなかったため、無投票となりましたが、当選した皆さんは緊張した面持ちで当選証書を受け取っていました。

このほか、6人の委員が議会、事業所などの推薦により選ばれ、合計21人で新体制がスタートしました。



▲3年間の任期がスタート

## 毎日の食生活から健康づくり

食生活改善推進員地区普及活動

7月11日、法道寺公民館において、食生活改善推進員による地区普及活動が行われ、約20人が参加しました。

これは、「食を通して地域の健康づくり」を合言葉に食生活改善推進員や管理栄養士が学習会と調理実習・試食会を行っています。

この日は、近年増加傾向にある糖尿病について学習した後、「大根そば、きびなごの南蛮漬け、いんげんとめかぶのサラダ」を調理しました。

参加者らは、栄養価や調理のポイントを聞きながら、時折笑い声が出るなど、楽しくおいしく学習しました。



▲ちよつとの工夫がポイント!

## 事故のない夏を祈願

水難事故防止祈願祭

7月14日、立神地区熊野座神社において、水難事故防止祈願祭（氷川町観光物産協会主催）が行われ、四宮和明観光物産協会会長をはじめ関係者ら約20人が出席しました。

この日は、あいにくの雨模様でしたが、滞りなく神事が行われ、事故防止を祈願しました。

主催者の四宮会長は、あいさつの中で、「時には脅威となる自然だが、逆らうことなく共有していきたい。自分たちの故郷である立神峡を広く発信し、たくさんのお客さんにすばらしさを満喫してほしい。」と述べられました。



▲事故防止を祈願して玉串奉奠

# 町民文芸

## 短歌

夏バラの幹結わわられて愛しけれ  
痛きもいわず小ぶりの花びら

法道寺 本田 花風

父の日の吾娘ゆ届けし進物に  
われを気遣う添書きのあり

北野津 宮本 末秋

開講式津軽三味線招かれて  
見事な演奏聞き廻る

上高塚 桑原ゆき代

有りがとう有りがとうと手を合せ  
母の晩年姿想わん

西野津 古崎スエノ

雷神を彫りゆく人の心には  
炎なき世をや祈りてあらむ

吉本 高橋 澄子

胸元の少し眩しむ夏衣  
ペタル踏む娘の清清し

西野津 古崎 栄子

亡母の好みし新ジャガ命日に  
クリームまろやか播鉢回る

南鹿野 尾崎 京子

お犬殿お散歩途中なさる糞  
捨て置かるるは至極迷惑

吉本 橋村 正之

親竹を越して伸びゆく若竹は  
五月の雨で成長を遂げる

下高塚 竹中 力

信ずれば夢にも仏出て給う  
常住不滅の魂磨けよ

桜ヶ丘 宮崎敬四郎

## 俳句

さあ団扇出せ節電や省エネや

北野津 宮本 末秋

歸らざる兄を待宵草と待つ

上高塚 桑原ゆき代

紋付の紋を背に付け夏ドレス

西野津 古崎スエノ

雨に濡れ白く匂ふや娑羅の花

吉本 高橋 澄子

雨やみて山深かしや鮮らけし

西野津 古崎 栄子

朝一番赤飯届く田植雨

南鹿野 尾崎 京子

甲子園目指す球児や梅雨晴れ間

町 香山菊童子

甚平の似合ひたる夫若くみえ

町 香山セツ子

急流の球磨川うねる五月雨

下高塚 竹中 力

湯の宿の肌に紅さす合歓の花

桜ヶ丘 宮崎敬四郎

老いゆけば願ひは一つ星祭

桜ヶ丘 吉田 照子

冷奴白磁に映る孫の顔

町 田中 澄子

自らを天に照らして梅雨明け

桜ヶ丘 宮崎トシ子

## 六月の雨

法道寺 本田 花風

肩にふれている黒髪  
そつとかきあげる白い指先の光

少女の顔に大人のしぐさ

グラスを持つ手

頬を軽くささえている小さなコブシ

カウンターの小さな丸椅子の

その上のストラックスのかわいい尻が

少しはみ出し時々動く

ボーイに話しかけるその晴れやかな

言葉音が

それらみんながひとつ残らず

酔眼に美しく映る

ひとときのたわむれ心

六月の雨の夜

## 改作満中陰 志

吉本 橋村 正之

嘆き悲しむ声聞きながら  
体を脱けたその魂は  
来世が決まる審判受けるに  
冥途に向けて旅立ちをする

四十九日の冥途の旅で  
如何なる裁き行われるか  
不安を胸に山坂越えて  
七日に一度の審判受ける

先ず初七日は出廷したが  
此の日は書類だけの審査  
難なく終り次へと進む  
向いし先は三途の河原

三途の河原で辺りを見れば  
先立つ不孝の罪の子達が  
小石集めて石塔づくり  
作り上げれば鬼めが崩す

積んでは崩された積み直す  
賽の河原の果て無き業に  
別れを告げて乗る渡し舟  
その渡し賃今も六文

投稿いただきました作品は、短歌・俳句それぞれ一句とします。必要な場合は、ルビを付けてください。

また、確認のためお電話することもありますので、連絡先の記入をお願いします。